

五戸総合病院での研修を終えて

令和3年9月研修医
大阪市立大学医学部附属病院
初期臨床研修医 加藤 きみ佳

大阪市立大学医学部附属病院 初期研修医の加藤きみ佳と申します。

この度は、国民健康保険五戸総合病院で9月の1か月間外科研修をさせていただき、誠にありがとうございました。大変有意義で刺激的な研修となったこと、ここにお礼申し上げます。

三沢空港に降り立った時の肌寒さと田んぼの青々とした光景を今でも鮮明に覚えております。

五戸総合病院では手術や救急外来の急性期疾患から訪問診療や緩和、お看取りの慢性期疾患と幅広い経験をさせていただきました。

手術症例は大腸癌や子宮筋腫等の大きなものから、粉瘤・陥入爪、ポート造設など日帰りのものまで実際に執刀・助手をさせていただく機会をいただきました。また最終日には帝王切開にも参加させていただき、新たな命の誕生に立ち会えたこと大変嬉しく思います。救急外来では、倦怠感や腹痛、転倒などcommonな症例から、“馬が…”、“蜂が…”など地域ならではの症例も多く、PHS callは毎度ドキドキでした。

慢性期としては、急性期病院での治療を終えた患者さんへの加療や施設・自宅を含めた日常生活への復帰までの支援について学びました。また院外では訪問診療や患者家族へのIC、実際にお看取りをさせていただきました。専門科を持たない研修医の時期にこのような経験をできたことは今後の医師人生への大きな糧になると考えます。

加えて同時期には他病院からの研修医も多く、研修中はとても刺激になり、かつ今後へとつながる新たな縁ができたこと嬉しく思います。

1か月はあっという間でありましたが、将来像への礎となる広く深い研修期間であり、かつ「病気ではなく、人を診る」医療をより体感した研修期間でありました。それはひとえに、どんなこともまず自分で経験し、どんな時もサポートいただける環境があったからこそだと感じております。今後も五戸総合病院での経験を活かし、目の前の患者さんへ恩返しをしていきたいと思っております。

最後になりますが、すっかり金色に染まり、一方では稲刈りを終えた田んぼを見て、1か月の時の流れを感じます。

日々ご指導いただきました安藤先生、井上先生、後村先生、そして産婦人科の井戸川先生、小児科の笹野先生、病院スタッフの皆様には大変感謝申し上げます。またコロナ禍ではありましたが、研修機会をいただきました青森県の皆様に大変感謝します。ありがとうございました。